（様式①）

事　業　計　画　書　目　次

［環境創造局］　　１款１項２目　　（単位：千円）

計画書頁	事　業　名	令和５年度		令和４年度		増△減（５－４）		新規・拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	良好な農景観の保全事業	86,710	0	90,436	0	△ 3,726	0	
2	農とふれあう場づくり事業	400,394	220,000	504,814	464,000	△ 104,420	△ 244,000	
	計	487,104	220,000	595,250	464,000	△ 108,146	△ 244,000	

（様式②-1）

令和　５年度　事業計画書

事業局課	環境創造 局	農政推進 課	新規拡充	□ 新規　□ 拡充	事業評価書番号	1-1-2 1
事業区分	□ 施設等整備費　■ その他					
歳出予算科目	みどり保全創造事業費 会計 1 款 1 項 2 目		枝番号	1	前年度事業名称	良好な農景観の保全事業
事業名称	良好な農景観の保全事業	政策番号 32	政策指標 2	施策番号 3	施策指標 1	

（単位：千円）

区　分	金　額	財　源　内　訳				一 般 財 源 等	
		国	県	諸収入	基金繰入金	市債	一般財源
令和５年度	86,710	0	0	0	86,710	0	0
補助事業							0
単独事業							0
令和４年度	90,436	0	0	0	90,436	0	0
増△減	△ 3,726	0	0	0	△ 3,726	0	0

歳出		令和元年度	令和２年度	令和３年度
予算	事業費	98,680	94,720	90,760
予算	市債＋一般財源	0	0	0
決算	事業費	72,651	68,643	68,013
決算	市債＋一般財源	98	593	7

令和６年度	令和７年度	令和８年度
－	－	－
－	－	－

事業概要	農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能などグリーンインフラ（※１）としての多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観も多様です。農業専用地区（※２）に代表される、集団的な農地により構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などによる農地を維持する取組を支援します。 ※１　農地などの自然的環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進めるための社会資本 ※２　都市農業の確立と都市環境の保全を目指し、まとまりのある農地を横浜市独自の制度により指定した地区
事業開始年度	①水田の保全／水田保全奨励：平成21年度 ②農景観を良好に維持する活動の支援／牧草等による環境対策への支援：平成21年度、共同利用設備の整備支援：平成21年度 ③多様な主体による農地の利用促進／農地貸付促進：平成21年度、農地復元：平成23年度
根拠法令・方針決裁等	①水田の保全 水田保全奨励事業実施要綱 ②農景観を良好に維持する活動の支援 横浜市共同利用設備等設置支援事業補助金交付要綱 横浜市牧草等による環境対策奨励事業実施要綱 ③多様な主体による農地の利用促進 農業経営基盤強化促進法 横浜市農地貸付促進事業奨励金交付要綱 横浜市農地復元支援事業補助金交付要綱
①背景・課題の分析 ②事業目的・効果 （必要性）	①背景・課題の分析 ・横浜みどりアップ計画に基づき、良好な農景観を保全するための施策を推進しています。 ・経営耕地面積は平成22年から令和２年の10年間で2,203haから1,675haに約24%減少しました。 ・水田景観は多くの市民に親しまれてきましたが、担い手の高齢化や米の販売価格の低迷などにより水田面積の減少が著しい状況です。土地所有者等に対する水田の継続的な保全の支援が求められています。 ・夜間の農地は暗がりが多く、人目に付きにくい環境となっているので不法投棄が絶えず、良好な農景観を維持するための対応が求められています。 ・農地と住宅地とが近接しており、農地からの土砂流出・土ぼこりの抑制や剪定枝及び作物残さ等の適切な処理など周辺環境との調和が求められています。 ・耕作放棄地は大きく増加し、農景観の悪化や不法投棄の発生が懸念されています。多くの市民から耕作放棄地の発生を防止・解消し、農地を維持する取組みが求められています。 ②事業目的・効果（必要性） ＜事業目的＞ 　横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。集団的な農地により構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家・法人などによる農地を維持する取組を支援します。 ＜効果＞ ・水田が10年間保全され、良好な景観の形成や生物多様性の保全などの多面的機能が発揮されます。 ・不法投棄をされやすい時間帯に警備者を配置することにより、不法投棄を未然に防止（抑止）します。 ・せん定枝などを堆肥化する取組や牧草等による環境対策への活動が進むことにより、周辺環境と調和した農景観の保全につながります。 ・耕作放棄地や利用程度の低い農地を、新規参入者や意欲的な担い手農家に農地を集積化させることにより、優良農地の保全を図ります。

根拠・データ等	・横浜みどりアップ計画［2019-2023］における目標値：年間125haの水田面積 ＜実績推移＞平成28年度120.8ha、29年度119.8ha、30年度117.5ha、令和元年度113.5ha、２年度113.3ha、３年度112.2ha ・「横浜のみどりに関する土地所有者意識調査（平成29年７月）」において、「農地を貸すための条件」について「農地の整備（荒廃農地の復元）」と回答した割合：22% ・「食と農林漁業に関する世論調査（平成30年：内閣府）」において、「農業政策に対する期待」について「耕作放棄地の発生を防止・解消し、農地を維持すること」と回答した割合：38.6%

事業指標		年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度
水田保全面積	単位	目標	125.0	125.0	125.0	125.0	－	－	－
	ha	実績	113.3	112.2					
夜間警備日数	単位	目標	234	234	234	234	－	－	－
	日	実績	235	234					

事業スケジュール

①水田の保全
＜水田保全奨励＞
・４～６月：新規・更新申出受付
・６～10月：現地調査
・11～12月：新規・更新承認
・１～２月：奨励金交付決定
・３月：支払

②農景観を良好に維持する活動の支援
＜夜間警備委託＞
・通年：市内のいずれかの農地を監視

＜横浜市牧草等による環境対策奨励事業＞
・４月～以降随時：奨励金交付申出受付、現地調査
・６月下旬～３月：事業実施報告受付
・７月上旬～３月末：支払

＜共同利用設備の整備＞
・４月～５月末、以降随時：事前申出受付
・６月上旬～２月：補助金交付申請受付
・６月下旬～３月末：実績確認、補助金交付

③多様な主体による農地の利用促進
＜農地貸付促進＞
・４～12月：賃借状況の確認
・１月：交付対象者確定
・２月：交付決定
・３月：奨励金交付

＜農地復元＞
・～１月末：申出受付
・～３月末：補助金交付

（単位：千円）

細事業（事業内訳）	細事業名称	５年度	４年度	差引（増減）	増減説明
	① 水田の保全	39,900	39,900	0	
	② 農景観を良好に維持する活動の支援	24,150	23,916	234	建築保全労務単価の上昇に伴う増
	③ 多様な主体による農地の利用促進	22,660	26,620	▲ 3,960	対象面積の減 等
	細事業合計	86,710	90,436	▲ 3,726	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長 近藤　元子	係長 鈴木　雄大	係 竹内　ひかる

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

（様式②-1）

令和　５年度　事業計画書

事業局課	環境創造 局	農業振興 課	新規拡充	□ 新規　□ 拡充	事業評価書番号	1-1-2 2
事業区分	□ 施設等整備費	■ その他				
歳出予算科目	みどり保全創造事業費 会計	1 款 1 項 2 目	枝番号	2	前年度事業名称	農とふれあう場づくり事業
事業名称	農とふれあう場づくり事業	政策番号 32	政策指標 2	施策番号 4	施策指標	－

（単位：千円）

区　分	金　額	財源内訳 国	県	諸収入	基金繰入金	一般財源等 市債	一般財源
令和５年度	400,394	31,000	0	0	149,394	220,000	0
補助事業	62,000	31,000			4,000	27,000	0
単独事業	338,394				145,394	193,000	0
令和４年度	504,814	0	0	0	40,814	464,000	0
増△減	△ 104,420	31,000	0	0	108,580	△ 244,000	0

歳出		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
予算	事業費	451,210	257,075	363,734	－	－	－
予算	市債＋一般財源	329,000	212,000	464,000	－	－	－
決算	事業費	289,979	146,636	315,871			
決算	市債＋一般財源	253,000	91,000	27,000			

事業概要	食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進め、市民が農とふれあう機会を提供します。
事業開始年度	平成21年度
根拠法令・方針決裁等	横浜みどり税条例、横浜みどりアップ計画[2019-2023]、横浜市収穫体験農園の開設支援事業補助金交付要綱、都市公園法、横浜市公園条例
①背景・課題の分析 ②事業目的・効果 （必要性）	①背景・課題の分析 平成29年度「横浜の緑に関する市民意識調査」では、「農に関することで、今後行ってみたいこと」として「イチゴ狩りや芋掘りなどの収穫体験」が39.5%となっており、野菜や果物のもぎとりなど身近に農体験をしたいという市民ニーズが高いです。 ②事業目的・効果（必要性） ・実施目的 さまざまな市民ニーズに合わせた農園の開設 ・収穫体験農園の開設支援事業 …野菜の収穫や果物のもぎとりなどを身近で体験することができる場を増やすため、収穫体験農園の開設に必要な施設整備等を支援します。 ・農園付公園の整備 …土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を市が買い取るなどして、市民が農作業を楽しめる農園を主とした都市公園を整備します。 ・期待される効果 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めることで、農景観の保全が進むとともに、市民が身近な場所で農を楽しむ場の提供につながります。
根拠・データ等	・横浜の緑に関する市民意識調査及び土地所有者意識調査 ・これからの緑の取組[2019-2023]（素案）に対する市民意見募集 ・過去の実績

事業指標		年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度
収穫体験農園の開設支援	単位	目標	1.50	1.50	1.50	1.50	－	－	－
	ha	実績	2.87	2.87					
農園付公園の整備	単位	目標	0.00	0	2.68	2.12	－	－	－
	ha	実績	0.00	0					
	単位	目標							
		実績							

事業スケジュール	・収穫体験農園の開設支援…事業募集（通年）、申請受付（夏頃）、事業実施（通年） ・農園付公園の整備等…用地取得、設計、工事等

（単位：千円）

細事業（事業内訳）	細事業名称	５年度	４年度	差引（増減）	増減説明
	① 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	400,394	504,814	▲ 104,420	工事対象箇所の違い等による減
	細事業合計	400,394	504,814	▲ 104,420	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長 朝倉　友佳	係長 田並　静	係 横山　美香子

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1